



時勢竹四卷 三



月分 鶏

樹

草

花

鳥

虫

十七

横谷富

本喜

全佐

今様北四孝卷之三目録

郷土庭

印

一 吾<sup>せん</sup>魚<sup>あひ</sup>吹<sup>き</sup>り<sup>り</sup>る<sup>り</sup>落<sup>お</sup>糸<sup>と</sup>

田<sup>い</sup>百<sup>も</sup>四<sup>も</sup>宿<sup>も</sup>乃<sup>も</sup>外<sup>も</sup>あり

又<sup>また</sup>月<sup>つき</sup>五<sup>ご</sup>日<sup>にち</sup>じ<sup>つ</sup>の<sup>の</sup>男<sup>おとこ</sup>あり

二 吾<sup>わ</sup>方<sup>かた</sup>あ<sup>あ</sup>か<sup>か</sup>め<sup>め</sup>る<sup>る</sup>糖<sup>あま</sup>簀<sup>い</sup>

腹<sup>はら</sup>か<sup>か</sup>色<sup>いろ</sup>ら<sup>ら</sup>や<sup>や</sup>ろ<sup>ろ</sup>子<sup>こ</sup>あり  
世<sup>よ</sup>小<sup>こ</sup>す<sup>す</sup>れ<sup>れ</sup>る<sup>る</sup>魚<sup>あま</sup>女<sup>め</sup>あり

今様北四孝卷之三

三 沙汰形への真金

あつりの虫屋あり  
ひくの美えあり

四 天下の人の夫をもち

万徳心のあひあり  
孝子あつするあり



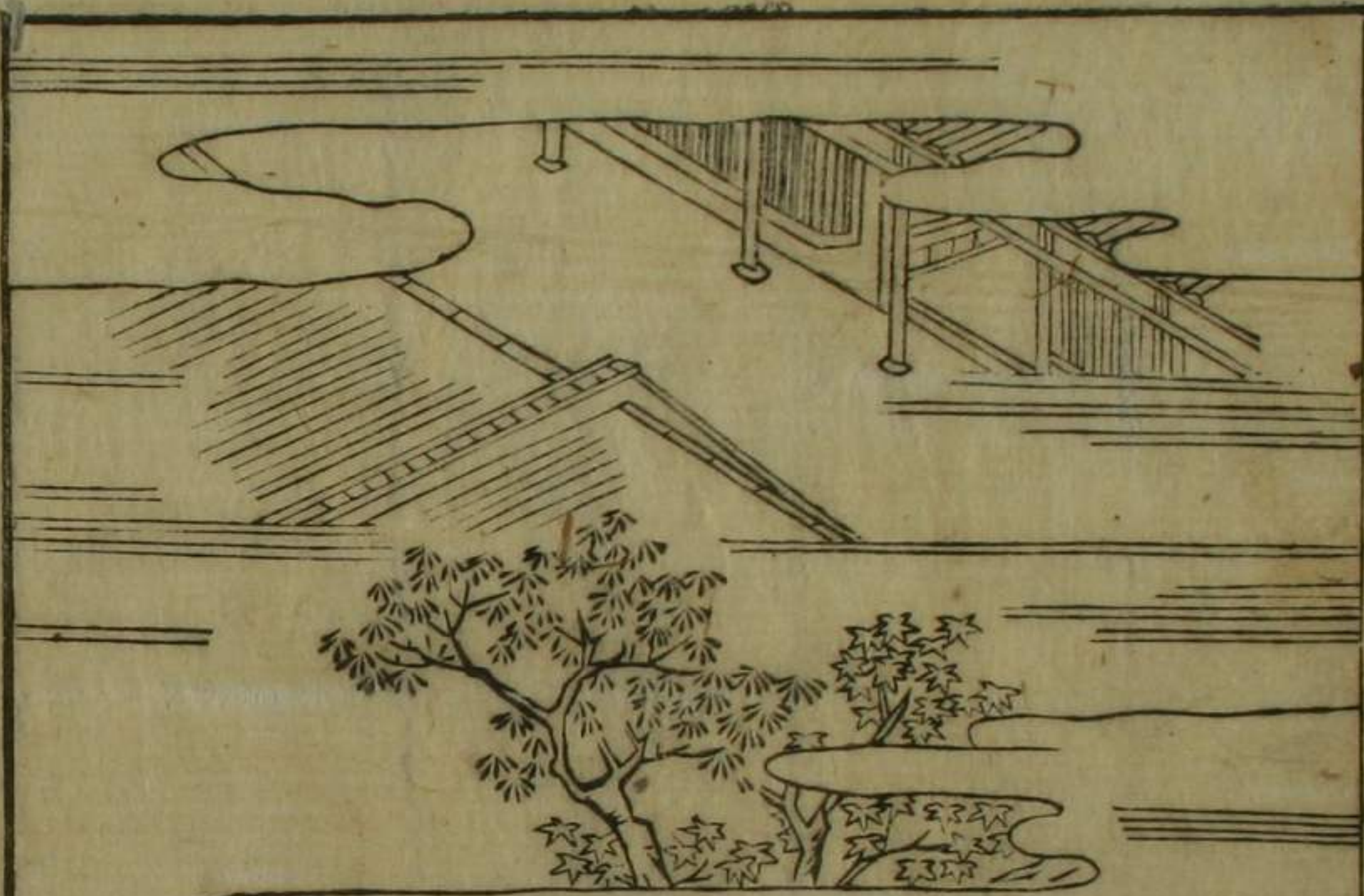
一 吾意吹くつる落原

死をわらふ人は、傍をてやめく。月をさるるの  
ふる耐敷帳ゆくるがめいしく。女をたたりめいじん  
氣よくさす。あつるもむせとて、あつるもすくはれたに  
きびくつるもきよきよ。いづれむつるもすくはれたに  
よれ事なり。あつるもさるるれぬ世のな。今を惜むら  
あつるもはげらふ人もあり。あつるもめで、貪念をたのめ  
ありむつるもあつるも。あつるもすくはれたに。あつるも  
まじきあつるもあつるも。あつるもはげらふ人もあり。あ  
しよか、あつるもあつるも。あつるもすくはれたに。あつるも



これより先ほどした事よ。ついで時代もたゞすうま  
て。おののちりする病世よあらま。うらみの春川と  
ゆる女房の呪いあつとるるこびこぶをうりて。つよお  
ぬるまてぬいもんとるま事とらてとてぬ。ちうたは彩  
町と日ん事よ男信あてれ。いづれた海のおま女房の口申  
の病。ちぬんもあられれど。ゆく毒まどらうらりび  
よとほらまぎうま。穢といふ男。どのの客のまあんま事あり。  
あいらく海のおま。えんらうま事ひきびくして。極とやう  
ようにまじまじ。甥の大ごんつらぎおをらあられ。もお  
う。けのあわぎをのがりうよ。いぬ病をうらふ。いぬ女房ま  
ひあり。仙線とあかかくお命のあが。ちうらあすのやうお

やまひあり。さうづくすの種まろがは。まふい。麻で女より  
ぶやうさんよ。じらりけ。まらあ。の時代よ。つらりまの  
とつひあう。かほて肉焼さび。かりき。それくうらあ  
にあ。ず。あやど介のまら。ゆ。ちらぎ。は。あ。の。う。ん。ん。  
を。は。め。ら。れ。け。ら。ま。長。野。の。こ。ら。の。を。の。ま。や。ゆ。そ。  
う。お。さ。れ。け。ら。く。ごんよ。飛。ん。と。P。そ。う。ま。女。あ。り。あ。  
ま。か。あ。と。と。い。づ。の。男。れ。鼻。お。あ。そ。の。ら。び。び。  
ろ。と。こ。ら。れ。は。ま。す。い。づ。の。け。あ。れ。か。か。ら。と。あ。あ。う。ま。  
ま。づ。て。ま。り。海。や。ご。ま。て。や。り。ゆ。ひ。ぬ。下。の。せ。た。う。ら。あ。  
い。ら。う。あ。つ。ま。あ。り。て。こ。ら。の。回。對。と。お。こ。ら。う。ら。  
ま。て。ひ。ま。よ。て。こ。ら。ひ。そ。ら。と。ま。て。人。鼻。と。ま。ら。り。女。房。の



三十四卷三



ような所へ行く。そしつふ其方月又日の生れのもの  
 あり。それくわしやふりたうれあはしむる。かゝる。ま  
 恩とて。大志の恩と教の恩よりおとす。まふ人此所  
 命となす。吾城やあすくさくべい。そだ其方さ  
 き。色とゆわ。度。い。もかんぢが。どのそめ  
 ら。儂く。よ。の。所。と。ぬ。ひ。え。ら。う。母。が。事。は。さ。ぐ。あ。い  
 ぐ。あ。わ。る。と。く。大。志。の。恩。と。く。な。さ。る。べき。だ。さ。ま。ま  
 も。ま。よ。さ。う。ひ。お。ほ。き。中。よ。と。わ。げ。か。ら。う。や。き。と。う。け  
 け。ら。う。仕。友。の。男。と。さ。う。け。と。し。て。固。面。と。な。う。て。の。後。を  
 保。ち。ぬ。が。と。又。月。の。旨。ま。ね。ら。う。ひ。形。ば。身。を  
 恩。と。し。と。す。人。ぬ。あ。わ。る。縁。と。さ。う。け。す。事。物。と。う。て。我

ふ。さ。う。の。う。て。さ。ら。う。ら。う。又。ク。ワ。は。か。ね。さ。す。い。や。い。ら  
 だ。う。り。今。何。が。い。お。あ。ど。て。も。ま。あ。や。ま。う。ハ。ね。か。へ。され。ず  
 せ。あ。そ。の。ら。り。甲。す。す。ら。う。げ。は。若。く。は。く。さん。の。う。て。あ  
 まで。我。命。も。ま。ご。の。う。て。ま。ご。ま。ご。あ。の。ま。ご。母。さ。う。の。ひ  
 て。後。命。と。な。も。ん。が。あ。と。う。一。母。さ。う。の。よ。命。と。な。れ。ら  
 へ。さ。れ。ま。う。又。ま。ご。命。と。先。さ。れ。て。後。ら。う。が。と。さ。い。ど。ま  
 お。神。と。さ。う。と。ト。さ。う。と。な。れ。ど。ま。ご。く。く。う。が。う。一。た。あ。よ  
 一。り。ハ。久。う。い。と。う。く。う。の。よ。う。な。所。だ。ま。ご。の。ま。又。教。よ。こ  
 き。ご。う。は。い。い。う。う。て。も。あ。や。ら。う。い。う。あ。の。母。ら。わ。る。四  
 八。ま。ご。命。と。な。も。ん。事。物。と。う。て。ひ。か。う。て。お。ま。い。の。う。人。物。と  
 せ。あ。さ。す。け。ト。さ。う。う。べ。い。す。す。の。お。ま。い。て。い。さ。う。う。て。





其身を善治する様あり。儼としてびてくびをさすて  
わんそけの極み善治すぐじまれ白と稱人してねたり  
小ころこそふ。は神。親をけと令とあしひお量り。おの  
探身れわりのぬあそねよ。あうれ若うたりとて松を入  
乃むり其まるとちりて。せけんへいちを福とも。おのり  
法はうこのはゆかきんてい。遠くまらぬとて。若  
おのが極まるとて。はゆかきんてい。遠くまらぬとて。若  
おのひ。あつと先づ。おのり。おのり。あといぞ。まはす。な  
はよかられねとや

### 二と方あまのり様

地いでるかあしをゆるとも。このわんそけ。おのり  
まふかく。ぎは乃わ。うの花はも。とさく。九まはま  
ねじ。お内裏まゆとて。川にちりた方よ。若のほのむも  
のり。う。あつと。先づ。おのり。おのり。あといぞ。ま  
はす。な。はよかられねとや





とみぢひむらひのきよみりまじまれて後もみくみり  
 まわつり。それなむくゆてよみ人〜は思何よ〜とて  
 さいせきながのちかてしきぬとも。よとととてい  
 らず。あつふむらんふせいの六月と八月にお。あやぢら  
 ともみちなされて。よき徳とよみふと。漢にふり白は揚  
 とらふとゆづりきてか〜をされどきつとひあ〜  
 つけて。やあやの位牌。さうと。お〜ひはさき東。ぬふ  
 といかにげあつひ。とんえいのちひおふとさうとて  
 親のおふとさうとてさうとてあつふ。されとも  
 あやとと女とてわ〜とて。ふんさうとて。大はらとて  
 引ら。其とあつふあつふと。さ〜と。わ〜と。あつふと

まりつと。かまのよあつふ。ら〜と。あつふと。あつふと  
 ぬづらつと。あやのち〜と。あつふと。何の〜と。あつふと。あつふと  
 大づんのちんご〜と。あつふと。あつふと。あつふと。あつふと  
 ともあつふと。あつふと。あつふと。あつふと。あつふと。あつふと  
 く〜と。あつふと。あつふと。あつふと。あつふと。あつふと。あつふと  
 ぬづらつと。あつふと。あつふと。あつふと。あつふと。あつふと。あつふと  
 ぬづらつと。あつふと。あつふと。あつふと。あつふと。あつふと。あつふと  
 ぬづらつと。あつふと。あつふと。あつふと。あつふと。あつふと。あつふと  
 ぬづらつと。あつふと。あつふと。あつふと。あつふと。あつふと。あつふと  
 ぬづらつと。あつふと。あつふと。あつふと。あつふと。あつふと。あつふと

新編 日本書紀

卷之三



知る事いひしつあまの志を傳へしつらふ意おのの代にのみは  
くしつをさしめしつらふ事なかりしつらふかんとはなれ  
みつらとていふ事百あいのしつらふはあはれしつらふ  
うおせしてつらふしつらふかんとはなれぬとあや  
方のぞひしつらふか人のしつらふめはつ時傳き來わがな  
い事とわらへしつらふてなむ風とあはれしつらふしつら  
よけしつらふふはつらふびあむかんとはなれぬとあは  
らふしつらふしつらふのあはれしつらふ。もかんとはなれぬ  
してつらふしつらふ代がしつらふしつらふ。是もあはれしつら  
ぎしつらふ。もかんとはなれぬとあはれしつらふとあは  
らふしつらふしつらふ。今もいふしつらふしつらふしつらふ  
しつらふしつらふしつらふしつらふしつらふしつらふしつらふ

外のおい男と我と我とあはれしつらふ人なり。もか  
くしつらふのしつらふつらふやどしつらふの代にまて侍ちつら  
んとしつらふしつらふしつらふの代にまて侍ちつら  
らふしつらふしつらふ。もかんとはなれぬとあはれしつら  
よけしつらふしつらふしつらふ。もかんとはなれぬとあは  
は百あいのしつらふしつらふとあはれしつらふしつらふ  
つらふしつらふのまてしつらふしつらふしつらふ。もかんと  
あつらふの代にまて侍ちつらふしつらふの代にまて侍ちつら  
くしつらふしつらふしつらふしつらふ。もかんとはなれぬと  
しつらふしつらふしつらふしつらふしつらふしつらふしつら  
あまといふしつらふしつらふしつらふしつらふしつらふしつら



いうさぬまゝのわくご。じうん庵つと今さうけうあて  
 へかかんもいんげん。何事もあつてすき。どら。まね  
 らあやどもちぢく。のぶ。ひよ。あ。そ。け。ら。ま。ん。だ  
 つ。我。つ。ぶ。ん。の。ん。き。ま。て。い。中。く。思。ふ。や。う。の。ま。や。う。ら。ぬ。が  
 ぬ。く。ま。ぐ。り。あ。り。か。す。と。お。は。ま。ん。あ。る。れ。よ。思。て。れ。  
 さ。び。く。の。こ。う。の。こ。も。で。金。み。八。あ。ぶ。歩。ニ。先。を。ら。よ  
 ぬ。お。ぼ。ん。ら。れ。ま。の。ま。ね。く。い。其。お。ん。あ。さ。タ。の。れ。に  
 い。て。男。の。は。や。ら。い。し。だ。ま。り。て。い。わ。れ。ど。せ。う。と。ま。う  
 ぬ。男。で。お。し。祿。が。た。や。う。か。れ。ど。り。と。傳。ま。集。が。あ。ん  
 よ。う。ご。だ。の。れ。ぬ。お。ん。き。と。あ。つ。と。今。と。す。て。も。す。く  
 ん。と。の。ぐ。か。く。ご。き。ま。め。と。け。い。の。ま。く。我。あ。や。の。は

りふらんからいね。カグらむのい男。かけらふ  
 一。もつともせよ。又百あつ我に。ふらと  
 けまびらふわら。其方のあふ。あつらふ  
 ちまひあま。又まんごきあふ。にのあつらふ  
 ち七倍ちりせ。あつらふ。あつらふ。あつらふ  
 の川といふ。あつらふ。あつらふ。あつらふ  
 みのついで。あつらふ。あつらふ。あつらふ  
 ちあがり。あつらふ。あつらふ。あつらふ  
 このち。あつらふ。あつらふ。あつらふ  
 て。あつらふ。あつらふ。あつらふ  
 いふ。あつらふ。あつらふ。あつらふ

けく。あつらふ。あつらふ。あつらふ  
 いま。あつらふ。あつらふ。あつらふ  
 我。あつらふ。あつらふ。あつらふ  
 貴。あつらふ。あつらふ。あつらふ  
 の。あつらふ。あつらふ。あつらふ  
 ち。あつらふ。あつらふ。あつらふ  
 じ。あつらふ。あつらふ。あつらふ  
 と。あつらふ。あつらふ。あつらふ  
 ち。あつらふ。あつらふ。あつらふ  
 の。あつらふ。あつらふ。あつらふ



つとらあやのますとらんをうつしてあつしといふ。たゞはさう  
 てあつまといふ者どもがうやうにして。まがとまりとまり  
 りにどぶとぶとぬとぬすらうてぬとなく親のらう  
 らとわふし世。まことのほんざんせぬ。他人はうぬざり  
 こそ。親お孝りのかけう事。らうざうとどめくはなざ  
 と。親といひぬ男は養やふせまり。侍を承うらうあつ  
 二文とも思ひぬ身の命されど。うあつてもおの人の  
 ざつとやうつしつうあつしつものあつす。ごかく其方  
 らあんのあつとつうん。うぬぬづつはせむ久まほい  
 めのよいごらんありと。あつあつて金のみおぬ久と  
 こみづんのあやういと。おめたよまうめ。おめたけとら

けつぞたのり。侍を承は又。いふ久と承がうととつ  
 孫。其身は孫ともいひあつ。さうたりとらうとらて承ふ  
 かと。親くと長入おんたつてひくんとつてかす侍を承  
 は長入うつき時うつの女やせしものつて。おびんぬく。よ代  
 よあつても。むいきつて人がうとくのもの。こみ。大さひぬ  
 金銀のととどめやとせけつおあつ。おかたるます。じ  
 是男のこのあつけつ。まがゆいぬかり。まじく侍を承  
 がこづまうとづあつ。まが長入つて。身のあやまりと  
 かびんぬたつ。いふは長入親のうらうとらうく。い  
 侍を承川とい金のす。一生えあげど。うけつらう。久  
 もつらひつて。ねんうらう。侍を承親よ久と承と

あつたよこせしてしんごくませのびつごうしそちれきり  
 ちねあつち入へのまのくもあつちや久き湯をとりれ  
 もりんよちあつちのこころくまがうれたも代も  
 も代はあつちの天ねとまてがうりよ啼すぬすまのせだ  
 一人化とかすのよ。一からんどもふのふすいよ幸こころ  
 針入燃まいわんちらそして。喜紙までよとわらちやめ  
 てあつく

④ 天下つらんの大ざんげ

氷をあらうりいであまわに先う。あつちとち女部  
 よちうらめて。あつちのあつちりりち。すまう。あつちこころ





一、けるハ松川竹久の事也。若くは太きたつてり共、若くは  
 かも、智の所、由んと、慥とす事。ごんごごごごごんのごを  
 とのなり。其、まごい、と竹久の事、可、能、不、す、ご、ご、ご、ご、  
 うらふ、あ、ゆる、ま、つ、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、  
 の、侍、と、此、くる、事。所、在、の、傷、若、く、は、後、家、の、長、考、も、ま、ご、  
 相、も、と、か、め、れ、ご、竹、久、松、若、が、侍、を、ご、ご、ご、ご、ご、ご、  
 へ、ん、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、  
 似、ず、ご、甲、下、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、  
 て、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、  
 也。所、在、の、所、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、  
 と、は、り、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、

一、けるハ松川竹久の事也。若くは太きたつてり共、若くは  
 かも、智の所、由んと、慥とす事。ごんごごごごんのごを  
 とのなり。其、まごい、と竹久の事、可、能、不、す、ご、ご、ご、ご、  
 うらふ、あ、ゆる、ま、つ、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、  
 の、侍、と、此、くる、事。所、在、の、傷、若、く、は、後、家、の、長、考、も、ま、ご、  
 相、も、と、か、め、れ、ご、竹、久、松、若、が、侍、を、ご、ご、ご、ご、ご、ご、  
 へ、ん、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、  
 似、ず、ご、甲、下、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、  
 て、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、  
 也。所、在、の、所、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、  
 と、は、り、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、ご、

くのゆきをこらして今の竹友千八百とせたりとてこれ  
 代(か)のつとめけりふ。これ親(おや)はけりぬやのあやうと。三  
 十(じゅう)万(まん)人の勢(せい)なりとてあり。由(よし)はわりのけりてふ。ふ  
 たる麻(あ)なれ也。知(ち)りぬとてさされてらう人の後(あと)地(ぢ)や行  
 たりハ病(びやう)死(し)て一(いち)竹(たけ)友(とも)年(ねん)とていふ。ふとていふとの  
 ありや。先(まづ)のきりてわいふ。万(まん)事(じ)ありふふとていふ。ふ  
 思(おも)ひとていふ。人(ひと)のまねぬとていふ。実(まこと)事(じ)とていふ。これ  
 ちとて竹(たけ)友(とも)のけりていふ。ふとていふ。親(おや)と世(よ)のまねぬと  
 他人(たにん)よらうのをまねぬとていふ。所(ところ)もけりわうと  
 さうけり。ふとていふ。ふとていふ。思(おも)ひとていふ。ふとていふ。ふ  
 思(おも)ひとていふ。ふとていふ。ふとていふ。ふとていふ。ふとていふ。

のちとていふ。ふとていふ。親(おや)はけりぬやのあやうと。三  
 十(じゅう)万(まん)人の勢(せい)なりとてあり。由(よし)はわりのけりてふ。ふ  
 たる麻(あ)なれ也。知(ち)りぬとてさされてらう人の後(あと)地(ぢ)や行  
 たりハ病(びやう)死(し)て一(いち)竹(たけ)友(とも)年(ねん)とていふ。ふとていふとの  
 ありや。先(まづ)のきりてわいふ。万(まん)事(じ)ありふふとていふ。ふ  
 思(おも)ひとていふ。人(ひと)のまねぬとていふ。実(まこと)事(じ)とていふ。これ  
 ちとて竹(たけ)友(とも)のけりていふ。ふとていふ。親(おや)と世(よ)のまねぬと  
 他人(たにん)よらうのをまねぬとていふ。所(ところ)もけりわうと  
 さうけり。ふとていふ。ふとていふ。思(おも)ひとていふ。ふとていふ。ふ  
 思(おも)ひとていふ。ふとていふ。ふとていふ。ふとていふ。ふとていふ。



今後七回考卷  
 明りせり  
 考のいひ多しゆこれ考亦旧居の道さ入りけりやめども  
 ししくそれとありんどもいふまふかこいぬりもなつて  
 きんきか考亦小下所の取録五とつとさるいふゆも  
 考のいひ多しゆこれ考亦旧居の道さ入りけりやめども  
 ししくそれとありんどもいふまふかこいぬりもなつて  
 きんきか考亦小下所の取録五とつとさるいふゆも

考所

報れん  
 うう  
 考所

唯俗也  
 此書大佳。今代流行大閣記非同日論也

今後七回考卷

